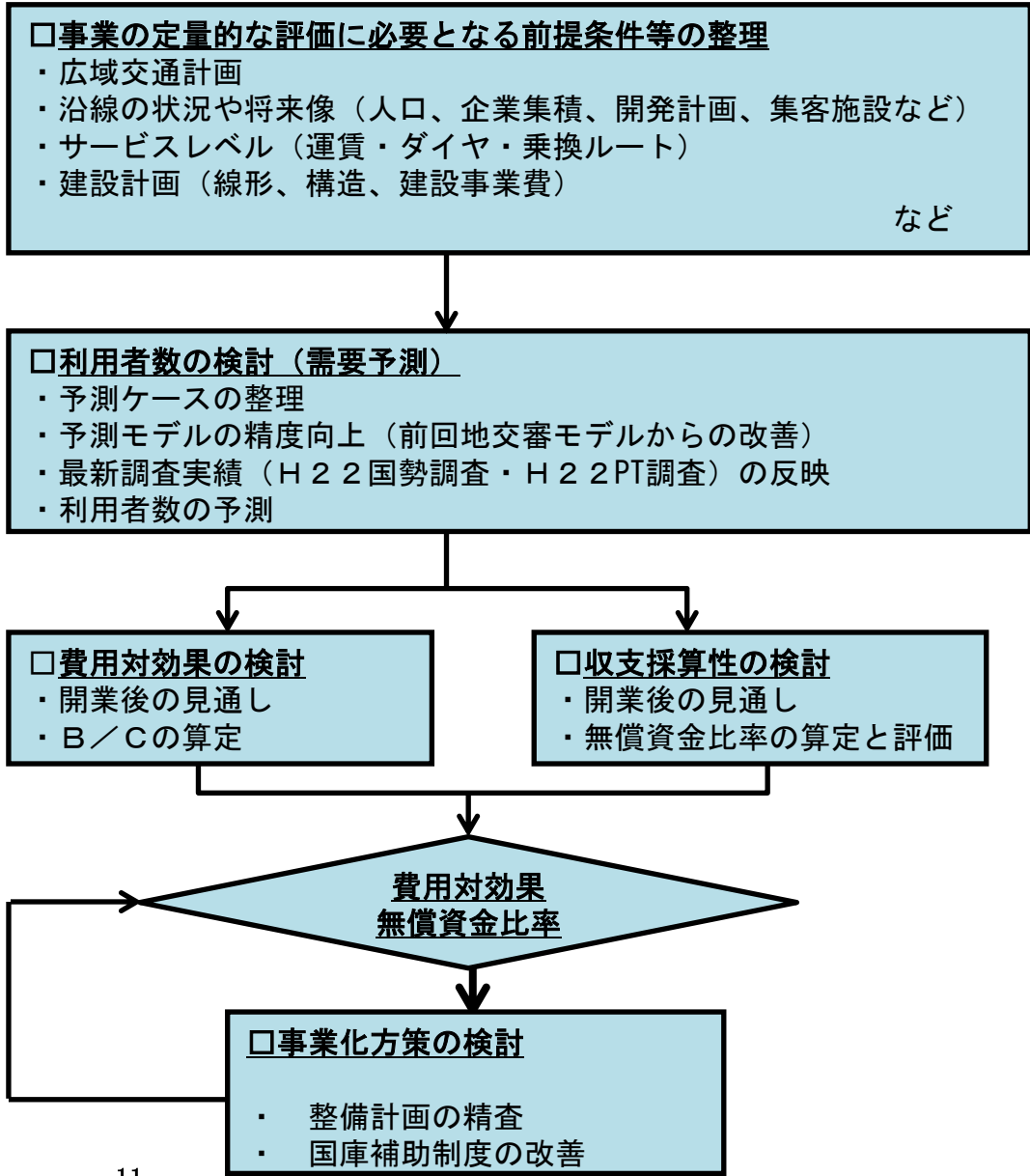


5) 評価手法

① 検討の流れ

- 既往の国調査を踏まえたうえで、整備計画の深度化を行う。
- 人口や開発計画など最新の調査結果等を用いて、路線毎に需要予測を行い、費用対効果および収支採算性を試算する。
- 試算結果を踏まえ、整備のあり方について、とりまとめを行う。

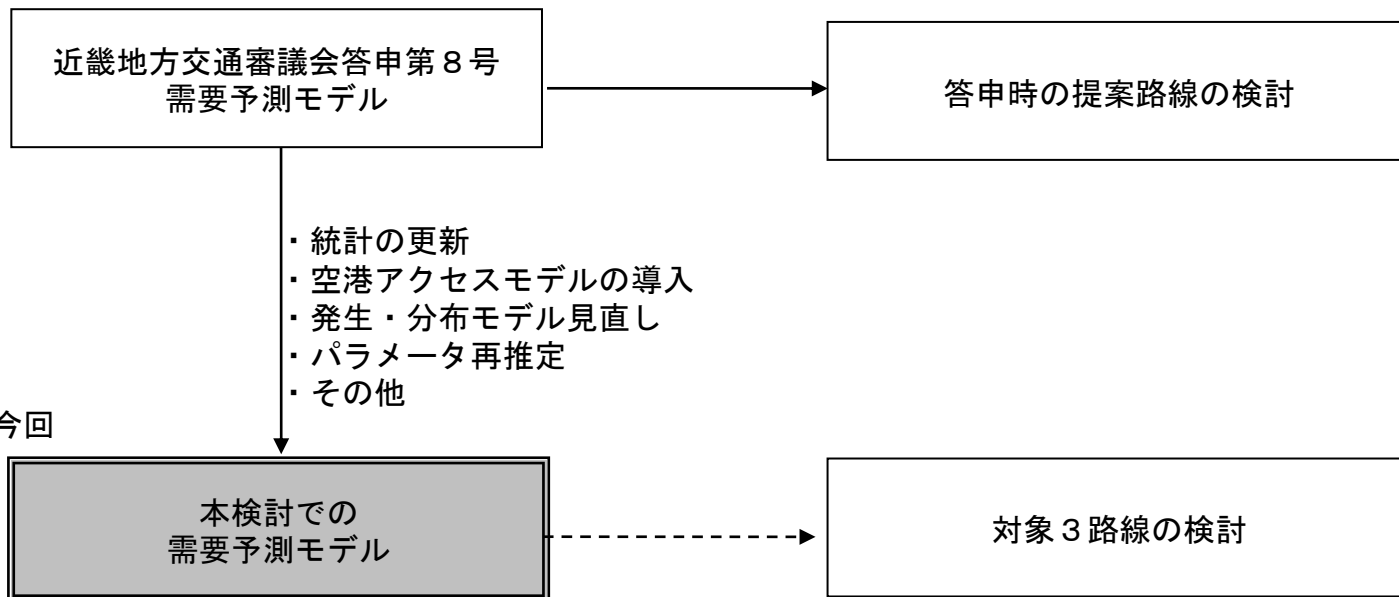


5) 評価手法

② 需要予測 (1) - 需要予測モデル

- 需要予測モデルは、前回答申においても用いられた4段階推定法を用いる
- ベースとなる国勢調査やパーソントリップ調査等は最新の調査結果を用いる
- 空港旅客の移動行動を評価するモデルを導入

平成16年10月



5) 評価手法

② 需要予測 (2) - 将来人口予測

- 将来人口は、過去のトレンドに基づき将来推計を行っている国立社会保障・人口問題研究所の市区町村別人口予測値を基本にする。
- 都心部においては、近年の利便性が高い都心居住の傾向を反映する。
- 一方で、過去のトレンドで表せない将来の開発計画について、該当地域の将来人口に反映する。

